

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌 まなぶくんだより



所長メッセージ

教育センター学びの丘 所長 鈴木 晴久

教育センター学びの丘の広報誌「まなぶくんだより」をご覧いただき、ありがとうございます。

また、平素から、教育センター学びの丘事業の実施に当たり、ご理解、ご協力を賜り、感謝申し上げます。

本年度も、当センターが実施する事業や、教育に関する情報を、ウェブページや所報とともに、できるだけ簡潔にお知らせします。

所報にも掲載していますが、当センターでは、「研修の充実」「研究の推進」「学校への支援」を3本柱に、学力向上や学び続ける教職員の支援を通して、「和歌山の教育」を元気にしていけるよう事業を展開していきます。

研修課では、教職経験年数に対応した研修と専門性の向上をめざす研修を、「校長及び

教員としての資質の向上に関する指標」に基づき、一体的、系統的に実施します。また、特別支援教育の基礎・基本研修も実施しています。

学校支援課では、今年度も「学びの丘 E サポート」を実施しています。特に、今年度は、各学校からの希望以外に、各市町村教育委員会と連携した研修や支援の充実を図りたいと考えています。

学力対策課では、全国学力・学習状況調査や県学習到達度調査等の結果を分析し、授業改善・学力向上に向けた研修の実施や資料等を提供してまいります。

また、ウェブページには、教育に関する各種情報や教材を多数掲載しております。特に、近年は「動画研修パッケージ」の充実を図っております。これは、動画視聴と研修資料を

セットにし、校内でも個人でも研修していただけるコンテンツです。タブレット端末やスマートフォンからも視聴できます。

ウェブページの活用につきましては、所報に「学びの丘 Web ガイド」を挟み込んでありますので、是非、ご活用ください。

当センターにおきましては、最新の情報や実践について研究を深めるとともに、カリキュラムセンター機能を発揮しながら、本県の課題解決と今後子供たちに求められる資質・能力の定着に向け、様々な事業を展開してまいります。各校におかれましても、授業改善や人材育成のため、当センターの研修講座やコンテンツをご活用いただけますようよろしくお願いいたします。

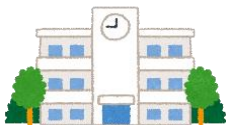


学びの丘が実施する学校支援「Eサポート」のご案内

「Eサポート」は、子供たちの学力向上や学校全体の教育力の向上をめざし、学校が取り組む研究や課題解決を支援します。学びの丘ウェブページにて、活用例や申込方法を紹介したチラシや実施例一覧表（メニュー）等を作成しています。右にある【学校支援】のバナーをクリックしてご覧ください。

学力向上への取組をすすめたい

授業改善をすすめたい



学校のPDCAサイクルの確立に向けて外部資源として関わり、指導・支援を行います

学習指導要領改訂のポイントを共有したい

「指標」に基づいた若手教員の育成をすすめたい

校内研修を充実させたい

様々なニーズに対応します

お知らせ	まなぶくんだより	学びの丘の広報誌です
学校支援	まなぶくんだより	学びの丘が実施する支援を2つに整理しました
学力関連	補充学習・家庭学習	補充学習や家庭学習のための問題等を掲載しています
	評価テスト	テストの結果を分析できるツールを活用しています

学びの丘 Eサポートを活用しませんか？

● 学力向上の取組をすすめたい
● 授業改善をすすめたい
● 「指標」に基づいた若手教員の育成をすすめたい
● 校内研修を充実させたい

様々なニーズに対応します

学力向上の取組をすすめたい
授業改善をすすめたい
「指標」に基づいた若手教員の育成をすすめたい
校内研修を充実させたい

学力向上の取組をすすめたい
授業改善をすすめたい
「指標」に基づいた若手教員の育成をすすめたい
校内研修を充実させたい

「Eサポートを活用しませんか？」(チラシ) →

お申し込みの際は、まず、お電話でご相談ください。

授業づくりや校内研修、特別支援教育に関する問合せ：(0739)26-3494(学校支援課)

児童生徒理解に関する問合せ：(0739)26-3498 (073)435-1550(義務教育課児童生徒支援室)





「家庭学習の充実を図るための参考資料」をご活用ください

全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、「家庭学習をしている」と回答している子供の方が、教科の正答率が高い傾向にあることが分かっています。しかし、和歌山県では、「家で予習・復習をしている」と回答している子供の割合は全国より低く、休日に全く勉強しない子供の割合は全国より高くなっています。

そこで、平成29年度学力向上コアティーチャー養成・活用事業では、受講者の研修テーマの1つを「効果的な家庭学習の在り方」とし、受講者が秋田県大仙市での研修や、所属校での実践から得た成果などについてまとめたものをもとに、「家庭学習の充実を図るための参考資料」を作成しました。

「家庭学習の手引き」は、家庭学習の習慣化に向けて、現在9割以上の学校で作成されています。しかし、その手引きの有効活用に悩んでいる学校が多いと聞いております。本資料は、より一層効果的に「家庭学習の手引き」を活用するためのヒントや、学年に応じた学習内容の例、習慣化を図るための手立て等を示しています。

この資料をご活用いただき、和歌山の子供たちが自主的に学習に向かう姿勢が身に付くよう、家庭学習の取組について見直し、改善を図ってください。

お知らせ	
まなぶくんだより	学びの丘の広報誌です
学校支援	学びの丘が実施する支援を2つに整理しました
学力関連	
補充学習・家庭学習	補充学習や家庭学習のための問題等を掲載しています
評価テスト	テストの結果を分析できるツールを活用しよう
評価問題	評価問題と集計シートがダウンロードできます
全国学力・学習状況調査	調査結果を分析できるツールを活用しよう
	全国学力・学習状況調査



■■■■ 家庭学習の充実を図るための参考資料 ■■■■

「家庭学習の充実を図るための参考資料」を、「平成29年度学力向上コアティーチャー養成・活用事業」の受講教員が秋田県での実地研修で学んだことなどをもとに作成しました。この参考資料を効果的に活用し、学校の課題や子供の実態に応じた家庭学習の充実に取り組んでください。

和歌山県教育委員会
画像をクリックしてください



教師を志す皆さんへ ～平成30年度初任者研修スタート～



4月5日（木）、教育センター学びの丘において、平成30年度初任者研修がスタートしました。開講式では、宮下教育長から「教師を志す皆さんへ」と題した講話がありました。その内容を抜粋して紹介します。

●新しい時代に向けて

少子高齢化が進み、今後も大幅な人口の減少が予想される現在、教育に携わる私たちは、将来を担う子供たちに何が提供できるのか改めて問い直す必要があります。これからの子供たちが生きていく社会は、「Dog Year（成長の早い犬にとっての1年は、人間の7年に相当する）」と喩えられるように、技術革新等変化の激しい社会でもあります。AIに人間の仕事が取って代わられるというのではなく、AIが人間の生産性を高めるといった発想をもち、これからの社会を生きていくための力（ICTを使いこなせる力など）を身に付ける教育をどう行うかが大切です。

●チームで取り組むということ

和歌山の和は、「和の力」＝チーム力です。何事も一人で解決しようとせず、それぞれの教職員の力をチームの中で発揮することが求められます。そのためにも、報告・連絡・相談はもちろんのこと、その後の確認が大切です。不安なことや心配なことは、一人で抱え込まず、「チームワーク・ネットワーク・フットワーク」の合言葉をもとに精進してください。

●初心忘るべからず

「教師」とは、「その人から何かを学び得たいと思うような人間」です。また、世阿弥の言葉に「初心忘るべからず」とあるように、常に自分が未熟であると自覚し、精進を続けていくことが重要です。「教師」とあるとはどういうことか、「教師」として子供たちに何ができるのかを考え、教え導く専門の知識をもった、常に学び続ける「教師」をめざしてほしいと思います。

教育センター学びの丘では、学級づくり等に関する「初任者のためのQ&A」を、ウェブページに掲載しています。ぜひ、ご活用ください。

学びの丘ウェブページ
<http://www.wakayama-edc.big-u.jp/kensyu/kihon/syonin/Q&A/Q&A.pdf>

午後からの校種別部会の講義・演習「学級開き・授業開き」では、年度当初の期待と不安や、1年間の見通しをもった学級経営・授業づくりのアイデアについて、活発なグループ協議・交流が行われました。210名の初任者はそれぞれ教員としての自覚を深めるとともに、今後の教育実践への思いを新たに、教職生活の第一歩を踏み出しました。

